



しおかぜ通信

学校教育目標「自ら学ぶ子供」 R8.1.21 No,33

八代市立郡築小学校
校長 村嶋 博史



郡築小ホームページ

【食育】「箸の持ち方と和食」について学びました

本校は、「令和7年度八代市食育推進校」の指定を受け、食育に係る様々な取組を行っています。

その一環で、1月15日(木)には、5年生が、「箸文化協会くまもと」の方から、「箸の持ち方と和食」について学ぶ機会を設けました。

子供たちは、「箸の歴史や箸と世界の食事」、「箸の正しい持ち方練習」、「箸使いのマナー」、「和食について(一汁三菜、配膳と箸置きなど)」、「箸を正しく持つ・使う意義」などについて、初めて知ることも多く、興味深く聞き入っていました。

この学びを普段の食事に生かしてほしいと思います。

「嫌い箸」の全てを知っていますか？

この講話の中で、「嫌い箸」(一般的にマナー違反とされる箸の使い方)についても触れられましたが、時間の関係上、全ての紹介はありませんでしたので、どのくらいあるのか調べてみました。

すると、その数の多さに驚くと共に、日本文化の奥深さを改めて感じました。(裏面をご覧ください)同時に、この食事の同席者への気遣いや、食材や作り手への感謝、また、食事を円滑かつ美しく楽しむために作り出された食事の作法は、これからも大切に守り続けていくべきだと思いました。子供たちには、その継承者となってほしいです。



教職員及び図書委員による読み聞かせ

1月15日(木)の朝自習時間に、今年度3回目となる職員による読み聞かせと、新たな取り組みとして図書委員(児童会活動)による低学年児童への読み聞かせが行われました。

図書委員の子供たちは多少緊張気味でしたが、低学年児童は目を輝かせながら聞いていました。図書委員の子供たちにとっては、自己の成長を実感したり、自己有用感を高めたりするよい機会になったことだと思います。また、低学年の子供たちにとっては、読書意欲の増大などと共に、先輩への憧れや尊敬などを抱く機会になったことだと思います。



読み聞かせの効果って知っていますか？

読み聞かせには、言語能力や想像力、集中力、共感力を高め、情緒を安定させる(イライラしない)効果があると言われています。また、親が行うことで、親と子の絆も深まるとも言われています。

この心(脳)の成長に多くの効果をもたらす読み聞かせを、時間がある時に行うで構いませんので、ご家庭でも行ってみてください。(行われているご家庭は続けてください)

火災避難訓練を行いました

1月20日(火)、八代消防署員の方々をお招きし、火災避難訓練及び消火器使用訓練を行いました。

今回は、子供たちには、火災避難訓練を行うことは事前に伝えましたが、いつ、どこで出火するかについては伝えずに行いました。よって、子供たちは、出火場所を把握し、避難ルートを考えて避難する必要がありました。



その中、子供たちの避難行動は素速く、火災発生を知らせる放送から全児童が運動場に避難完了するまでの所要時間は3分かかりませんでした。これには、消防署員の方からもお褒めの言葉をいただきました。しかし、ポケットに入れたり、しゃべったりしながら避難している子供がいたことに対しては、署員の方から、してはいけない理由と共に、自分の命を守るために絶対にしてはいけないとご指導いただきました。

ご多用の中にわざわざおいでいただいた消防署員の方々に心より感謝すると共に、今後も学校総体で、命を守る行動「お・は・し・も」(押さない・走らない・喋らない・戻らない)の浸透に努めたいと思います。

その後行った消火器使用訓練では、消火器を使用するときは「3×5」(消火器の準備は3操作、消火は5mの距離から近づきながら)で行いましょうと教えていただきました。

「嫌い箸」(一般的にマナー違反とされる箸の使い方)一覧

- ・逆さ箸=大皿や鍋料理などを取り分ける際に、箸を上下逆さまにして用いること。(取り箸を使うのがマナーです)
- ・迷い箸=どれを食べようかと迷い、箸を持ったまま食べ物の上をあちこちと動かすこと。
- ・探り箸=汁椀の底に具が残っていないかと、箸を椀の中でかき回して中身を探すこと。
- ・移り箸=ある食べ物を取ろうと箸を伸ばした後、突然他の食べ物に箸を移すこと。(和食では、ご飯→おかず→ご飯→お汁→ご飯……と食べるのがマナーです)
- ・刺し箸=突き箸とも言って、食べ物に箸を刺して食べること。
- ・寄せ箸=箸で食器を手元に寄せること。
- ・渡し箸=食事の途中で箸を食器の上に渡し置くこと。(これは「ごちそうさま」の意味になります)
- ・箸渡し=箸から箸へ食べ物を受け渡すこと。
- ・込み箸=口にいったん入れた食べ物を、さらに箸で口の中に押し込むこと。
- ・銜(くわ)え箸=箸をくわえること。または、箸を口にくわえたまま手で食器を持つこと。
- ・なぶり箸=なめり箸とも言って、箸に付いた食べ物を口でなめて取ること。
- ・せせり箸=爪楊枝の代わりに、箸先で歯間の掃除をすること。または、箸で食べ物をつつきまわすこと。
- ・指し箸=食事中に箸で人や物を指し示すこと。
- ・涙箸=箸先から汁物などの汁をポタポタと落とすこと。
- ・握り箸=両手で箸をはさみ、挟むようにすること。(風習によりする場合もあるようですが、お箸の先が横の人に向いてしまいます。「いただきます。」後にお箸を持つようにしましょう。)
- ・挟み箸=「いただきます」の際に、両手の親指と人差し指で箸をはさみ、挟むようにすること。
- ・横箸=箸を2本揃えて、スプーンのように食べ物をすくい上げること。
- ・違い箸=例えば木と竹の箸を一対にして使うような、種類や材質の異なる箸を一対で用いること。
- ・立て箸=仏箸とも言って、箸をご飯に突き刺して立てること。
- ・叩き箸=箸で食器やテーブルを叩いて音を出し、人を呼ぶこと。
- ・持ち箸=箸を持ったままで(箸を持った手で)、他の食器を持つこと。
- ・受け箸=箸を持ったままで、おかわりをすること。
- ・空箸=箸を一度食べ物に付けておきながら、食べないで箸を置くこと。
- ・洗い箸=汁物などで箸先を洗うこと。
- ・もぎ箸=箸の付いた米粒などを口でもぎとること。
- ・噛み箸=箸先など箸自体を噛むこと。
- ・搔き箸=食器の縁に口を立てて食べ物を箸でかきこむこと。または、箸で頭などを搔くこと。
- ・直箸=取り箸を使わずに大皿の食べ物を自分の箸で取ること。(直箸を勧められたら従う方がよい)
- ・すかし箸=骨の付いた魚の上側を食べた後、魚をひっくり返さずに骨越しに裏側の身をつついで食べること。
- ・こじ箸=器に盛り付けられた食べ物を、上から食べずに箸でかき回し、好みの物だけを探り出すこと。
- ・揃え箸=食事中に箸先が上下にずれてしまった際に、椀や皿の上で箸先を軽く叩いて揃えること。
- ・撥(は)ね箸=嫌いな物を箸でのけること。
- ・重ね箸=ばっかり食べとも言って、一つの食べ物ばかり食べ続けること。
- ・振り箸=箸先に付いた汁などを振り落とすこと。
- ・落とし箸=食事中に箸を床に落とすこと。
- ・膳ごし=膳の向かいにある食べ物を、手で取り上げないで箸で取ること。
- ・二人箸=一つの料理に二人以上が同時に箸をつけて同じ物をはさんだり、箸で食べ物をやり取りすること。